

2005年防災教育チャレンジプラン最終報告書

記入日2006年 1月 31日

I 概要

実践団体・担当者名	高知県立高知東高等学校（担当者：谷内 康浩・小川 晴美）	
連絡先	高知県高知市一宮徳谷23-1 電話088（845）5751	
プランタイトル	地震防災学習プログラム	
目的	継続して地震防災について学習することで、地震の基礎知識、発生時・後の行動について理解し、防災意識の高揚をはかり、行動できるようになる。	
プランの概略	<p>①10月21日（金曜日）5・6限目（※1・3年生対象） 講演「必ずくる南海地震！その時、君は・・・」高知市消防局警防課 高橋慎治さん</p> <p>②11月1日（火曜日）5・6限目（「産業社会と人間」の時間を活用） 実習「地震から自分の身を守るために～自分の寝室を見直してみよう～」 アドバイザー：高知大学学生・大学院生</p> <p>③11月8日（火曜日）5・6限目（「産業社会と人間」の時間を活用） 実習「地震防災体験」・ロープの基本結索法 ・毛布などを使ったけが人の搬送法 ・ボール等を使った重量物の持ち上げ法 講師：高知市消防局、高知東消防署・高知市防災対策課</p> <p>④12月2日（金曜日）3、4限目（※全校生徒・教職員対象） 防災避難誘導訓練→別途報告</p>	
プランの対象と参加人数	総合学科1年生（40名×5クラス 200名）対象	
実施日時	2005年10月21日～12月2日	
主な実施場所	高知東高等学校校内	
連携した団体名、連携の方法	連携団体の有無	有り
	連携した団体名	①高知市消防局 ②高知大学理学部自然環境科学科 ③高知市消防局、高知東消防署・高知市防災対策課
	連携したきっかけ・理由	①②③ 専門的知識を活用するため。
	連携団体へのアプローチ方法	①③ 電話での依頼 ② 以前から面識があった。
	連携団体との打合せ回数	① 2回 ② 1回 ③ 1回
	連携団体との役割分担	

Ⅱ プラン立案過程

プラン立案メンバーの人数・役割	団体内のスタッフ総人数	11名（校内地震防災プロジェクト委員会メンバー）
	外部スタッフの総人数	0名
	主なメンバーの 役職・役割	校長（1名） 教頭（2名） 事務長（1名） 教諭（6名） 実習助手（1名）
プラン立案に要した日数・時間	立案期間	2005年4月～9月
	立案時間	1時間×2回
	上記のうち打合せ回数	2回
プラン立案で注意を払った点 工夫した点	○各行事との関連性を重視して、プログラムを作成する。 ○知識と行動を結びつけた内容とする。	
プラン立案で苦労した点	○連携機関との内容の調整	

Ⅲ 実践にあたっての準備

準備に関わった方 と人数・役割	団体内のスタッフ総人数	11名（校内地震防災プロジェクト委員会メンバー）
	外部スタッフの総人数	6名（高知市消防局1名、高知市防災対策課1名、高知大学4名）
	主なメンバーの 役職・役割	○校内 校長（1名） 教頭（2名） 事務長（1名） 教諭（6名） 実習助手（1名） 総合学科1年次生ホーム担任・学年主任・「産業社会と人間」担当教諭（11名） ○校外 高知市消防局警防課（1名） 高知市防災対策課（1名） 高知大学理学部自然環境科学科（教授1名、大学院生3名）
準備に要した日数・時間	準備期間	2005年10月～11月
	準備総時間	2時間×1回 1時間×3回
	上記の内打合せ回数	4回

教育関係への働きかけ	働きかけた教育関係者・機関名	
	どのように働きかけたか	
	結果	
地域への働きかけ	働きかけた地域の人・機関名	
	どのように働きかけたか	
	結果	
保護者・PTAへの働きかけ	働きかけた保護者・PTA組織名	
	どのように働きかけたか	
	結果	
機材・教材の準備方法	用意した機材・教材	①機材：液晶プロジェクター、スクリーン、パソコン ②教材：ワークシート ③機材：ロープ、ボール、ジャッキ、竹棒、毛布
	入手先・入手方法	①機材：校内で調達 ②教材：校内作成 ③機材：購入、連携先持参
	機材・教材選定の理由(なぜこの機材・教材を選んだのか)	①②③ 取り組みに利用するため
参加者の募集	募集方法	総合学科1年次生全員参加
	募集期間	
	参加予想人数	
	実際の参加人数	200名
	募集方法の成功点	
	募集方法の失敗点	
準備で苦労した点・工夫した点		③3つのメニューを体験するため、出席簿を兼ねたオリエンテーション形式のカードを準備した。

IV タイムスケジュール（プラン立案から実践終了までのスケジュールを記載して下さい。）

	プラン立案	実践にあたっての準備	実践
2004 11月			
12月			
2005 1月			
2月			
3月			
4月			
5月	○5/31 第1回地震防災プロジェクト委員会で日程確認		
6月			
7月			
8月			
9月		○連携団体との打合せ	
10月	○10/7 第4回地震防災プロジェクト委員会で内容確認	○連携団体との打合せ ○1年次生学年会・「産業社会と人間」担当 会で打合せ	○10/21 地震防災講演会 実施
11月			○11/1 自分の寝室を見直してみよう実施 ○11/8 地震防災体験実施 ○生徒アンケート実施
12月			○12/2 防災避難誘導訓練実施 ○12/22 第7回地震防災プロジェクト委員会で 総括
2006 1月			

V実践の詳細 【A. 素材】(メインとなる活動を45分を1コマとして記入して下さい。)

タイトル				
実施日				
所要時間	45分			
達成目標				
生成物				
進め方 (箇条書き)				
ツール (特別に用意した もの)				
場所				

V実践の詳細 【B. イベント】(短期集中型のプログラムを45分を1コマとして記入して下さい。)

タイトル				
実施日				
所要時間	45分	45分	45分	45分
達成目標				
生成物				
進め方 (箇条書き)				
ツール (特別に用意した もの)				
場所				

V実践の詳細 【C. 総合的な学習の時間】(継続的な学習を45分を1コマとして記入して下さい。)

タイトル	講演「必ずくる南海地震！その時、君は・・・」	実習「地震から自分の身を守るために～自分の寝室を見直してみよう～」	実習「地震防災体験」	防災避難誘導訓練
実施日	10月21日	11月1日	11月8日	12月2日
所要時間	45分×2	45分×2	45分×2	45分
達成目標	近い将来発生が予想されている南海地震の基礎知識を含め、その発生に対する切迫感を共有するとともに、発生前にできること、発生時の行動について理解する。	一般に人の睡眠時間は1日のうちの1/3～1/4を占めている。その時に地震に遭う可能性は十分あるので、できるだけ安全な場所で眠ることが必要である。自分が寝ている部屋を見直すことによって、自分の命は自分で守ることが大切であることを学び、自宅や学校での防災対策について考えるきっかけとする。	災害時において、自分の命だけでなく他人の命を守るための行動ができるようになる。 時間の関係もあり、全ての体験を完全にできるようになるのではなく、災害時の行動の入り口として、体験による興味・関心を高める機会とする。	火災や地震などの災害時における避難を安全かつ迅速に行えるよう、防災への意識を高める。また、訓練を通して、非常時のとるべき行動を確認する。
生成物		●ワークシート ●講演会の復習問題		
進め方 (箇条書き)	目的の確認、講師紹介 南海地震の起こる仕組み(簡単に) 次の南海地震の予測 長期的評価(50%の意味)特徴 揺れ(被害) 津波(浸水被害) 防災(減災)対策	講演会の復習 自分の寝ている部屋の間取り・家具の位置・寝ている場所等のチェック 危険な箇所を指摘し、対策を考える。	体操服に更衣をして、最初の場所に集合 ローテーション(30分)で移動(5分) ロープの基本結索法 毛布などの身近なものを使った	●地震発生時の対応を確認する ●地震の揺れ(100秒)を体験する ●教室などの危険箇所・対策を話し合う ●避難時の行動を確認する「おはしも」

	<ul style="list-style-type: none"> ・すぐにできること ・これからできること(短期・長期) 発生時にできること ・高校生として・・・ 人と人の絆の大切さ ●まとめ ●謝辞 		ケガ人の搬送法 バール等を使った重量物を持ち上げる方法	<ul style="list-style-type: none"> ●指示に従って避難場所に避難する ●講評
ツール (特別に用意した もの)	<ul style="list-style-type: none"> ●液晶プロジェクター ●スクリーン ●パソコン 	<ul style="list-style-type: none"> ●ワークシート ●色鉛筆(赤・黄・オレンジ) 	<ul style="list-style-type: none"> ●ロープ ●バール ●ジャッキ ●竹棒 ●毛布 ●参加確認カード 	
場所	体育館	各教室	多目的棟1階ホール 看護科棟1階集会室北昇降口前広場	各教室 補助グラウンド

VI実践後

<p>参加者へのアンケート結果</p>	<p>「地震防災体験」後、生徒全員にアンケートを実施した。 ○それぞれの取り組みは役に立ちましたか？</p> <table border="1" data-bbox="480 389 1331 546"> <thead> <tr> <th></th> <th>地震防災講演会</th> <th>寝室チェック</th> <th>ロープ結索</th> <th>搬送法</th> <th>重量物</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>役に立った</td> <td>45.0%</td> <td>39.7%</td> <td>43.3%</td> <td>58.0%</td> <td>41.0%</td> </tr> <tr> <td>まあ役に立った</td> <td>41.8%</td> <td>44.4%</td> <td>30.5%</td> <td>27.1%</td> <td>35.6%</td> </tr> <tr> <td>あまり役に立たなかった</td> <td>9.5%</td> <td>11.1%</td> <td>18.2%</td> <td>9.6%</td> <td>14.9%</td> </tr> <tr> <td>役に立たなかった</td> <td>3.7%</td> <td>4.8%</td> <td>8.0%</td> <td>5.3%</td> <td>8.5%</td> </tr> </tbody> </table> <p>○これまでの取り組みを踏まえて、地震への備えについて家族で話し合いましたか？</p> <table border="1" data-bbox="480 577 826 645"> <tbody> <tr> <td>話し合った</td> <td>15.5%</td> </tr> <tr> <td>何も話し合っていない</td> <td>84.5%</td> </tr> </tbody> </table> <p>○これまでの取り組みを踏まえて、あなた自身が地震への備えを何かしましたか？</p> <table border="1" data-bbox="480 676 826 770"> <tbody> <tr> <td>した</td> <td>12.7%</td> </tr> <tr> <td>何かしようと思っている</td> <td>43.9%</td> </tr> <tr> <td>何もしていない</td> <td>43.4%</td> </tr> </tbody> </table> <p>○積極的に防災学習に取り組めましたか？</p> <table border="1" data-bbox="480 801 826 891"> <tbody> <tr> <td>積極的に取り組めた</td> <td>56.9%</td> </tr> <tr> <td>積極的に取り組めなかった</td> <td>11.2%</td> </tr> <tr> <td>どちらでもない</td> <td>31.9%</td> </tr> </tbody> </table>			地震防災講演会	寝室チェック	ロープ結索	搬送法	重量物	役に立った	45.0%	39.7%	43.3%	58.0%	41.0%	まあ役に立った	41.8%	44.4%	30.5%	27.1%	35.6%	あまり役に立たなかった	9.5%	11.1%	18.2%	9.6%	14.9%	役に立たなかった	3.7%	4.8%	8.0%	5.3%	8.5%	話し合った	15.5%	何も話し合っていない	84.5%	した	12.7%	何かしようと思っている	43.9%	何もしていない	43.4%	積極的に取り組めた	56.9%	積極的に取り組めなかった	11.2%	どちらでもない	31.9%
	地震防災講演会	寝室チェック	ロープ結索	搬送法	重量物																																											
役に立った	45.0%	39.7%	43.3%	58.0%	41.0%																																											
まあ役に立った	41.8%	44.4%	30.5%	27.1%	35.6%																																											
あまり役に立たなかった	9.5%	11.1%	18.2%	9.6%	14.9%																																											
役に立たなかった	3.7%	4.8%	8.0%	5.3%	8.5%																																											
話し合った	15.5%																																															
何も話し合っていない	84.5%																																															
した	12.7%																																															
何かしようと思っている	43.9%																																															
何もしていない	43.4%																																															
積極的に取り組めた	56.9%																																															
積極的に取り組めなかった	11.2%																																															
どちらでもない	31.9%																																															
<p>成果として得たこと</p>	<p>○地震防災について、1学年全体で継続的に取り組めたことは初めてであり、また、今後も可能であることが明らかになった。 ○アンケート結果から見られるように、半数以上の者が地震への備えを考えており、防災意識の高揚につながった。</p>																																															
<p>成果物</p>	<p>(学習指導案、指導計画書、配布物、ワークシート、報告書、掲載記事等。 データがあればデータファイルを貼付して下さい。) ○実施要項 ○アンケート用紙 ○アンケート結果 ○新聞記事 ○写真</p>																																															
<p>広報方法</p>	<p>広報した先</p>	<p>高知新聞社(防災担当)</p>																																														
<p>広報の方法</p>	<p>電話連絡</p>																																															
<p>取材にきたマスコミ</p>	<p>高知新聞社(別件で防災教育について取材に来た記者が、「地震防災体験」の取材を行った。)</p>																																															
<p>広報された内容(掲載された記事・番組等)</p>	<p>高知新聞の防災教育に関する特集記事で、ロープ結索体験の様子の写真が掲載された。</p>																																															
<p>成功点</p>																																																
<p>失敗点</p>																																																
<p>全体の感想と反省・課題</p>	<p>○学習プログラムとして継続して取り組むことで、生徒全体の防災意識の高揚につながった。 ○寝室チェックの実習では、各ホーム毎にホーム主任以外にアドバイザーとして大学(院)生に加わってもらったが、年齢も近いこともあり、生徒も積極的に参加して取り組めた。 今後も、このようなピアの手法は有効であり、大学と連携しながら取り組みたい。 ○まだまだ受け身の生徒も見受けられ、動議付けの工夫が必要である。 ○一部、中学校で体験した生徒もあり、中学校との継続した取り組みの工夫が求められる。</p>																																															

今後の予定	来年度以降の進め方	○「産業社会と人間」の授業の中に位置づけて、来年度も実施する。
	是非実施してみたい 取り組み	
自由記述	○総合学科の特色を活かし、「産業社会と人間」の時間（火曜日2時限続き）を利用して、2つの実習を行うことができた。今年度は試行的に行ったが、来年度は「産業社会と人間」の授業に正式に位置づけ、継続的に取り組みたい。	